

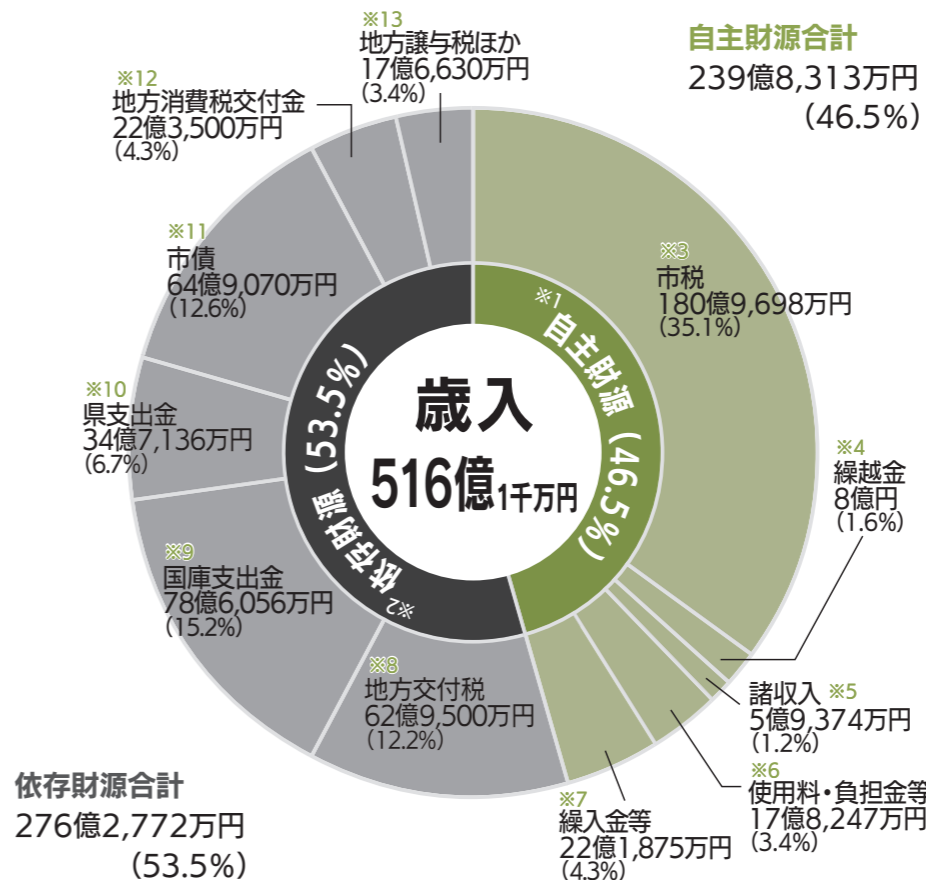
平成30年度 予算

歳入

下のグラフは、平成30年度の歳入をグラフにして示したものです。

市の主な財源である自主財源の市税は、180億超を見込み、人口減少などに伴い、昨年と比較し減少傾向にあるものの、歳入のうちで最も大きい比重を占めています。

また、新庁舎の建設や岡部公民館の建設などに伴い、通常と比較して有利な地方債『合併特例債』の活用で市債が一時的に増加しています。



平成30年度当初予算が、第1回市議会定例会で可決されました。
今年度の予算は第2次深谷市総合計画の力強い一歩を踏み出す予算として編成しました。計画に掲げる『元気と笑顔の生産地 ふかや』の将来像を目指し、将来を見据えた取り組みを進めます。

歳出

下のグラフは、平成30年度予算の歳出を性質ごとに分けて表したものです。高齢者や子どもなどさまざまな『福祉』分野に使われる『扶助費』が歳出の中で最も大きく、次いで『普通建設事業費』が大きくなっています。

【今年度の重点施策】

①子どもやシニア世代の充実策を積極的に展開

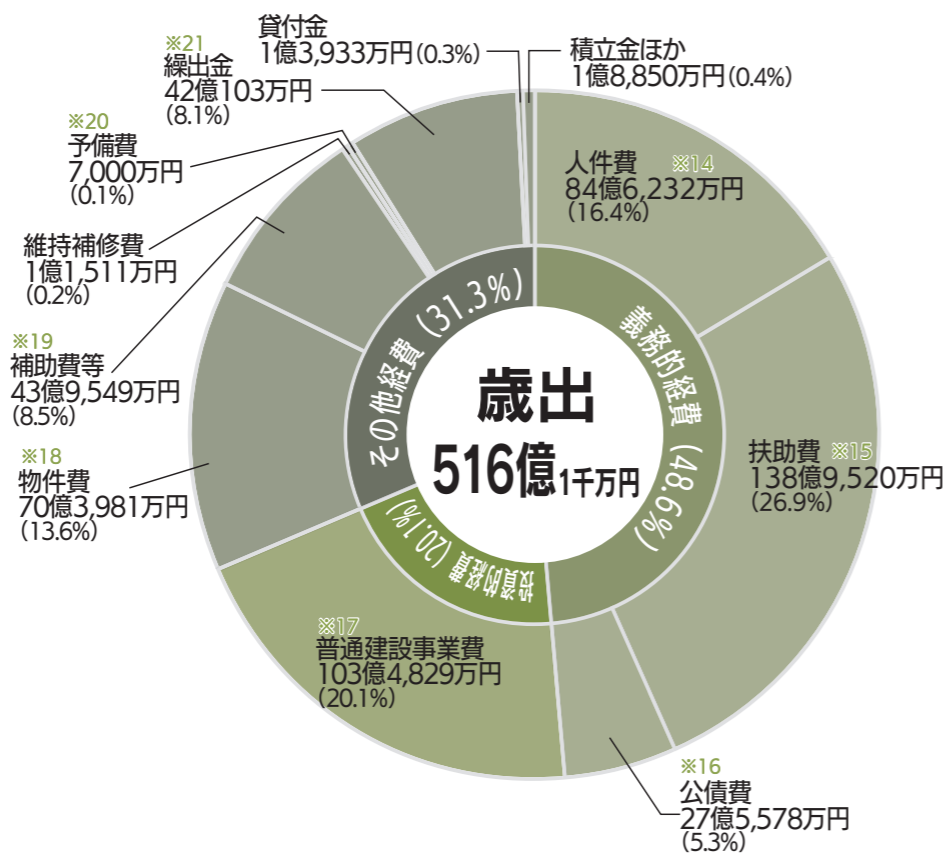
- ・学力向上推進事業（市立全小・中学校で標準学力検査を実施、英検・数検の受検費用補助）

・健康づくり推進事業（『健康づくり推進条例』に基づき講座やウォーキング事業の拡充などを図る）

・就業支援事業（市内企業へ個別訪問を実施。企業ニーズを把握し、ハローワークなどと連携してシニア世代の就労を支援）

②将来を見据えた施設整備

- ・新庁舎整備事業
- ・岡部公民館建設事業



【性質別歳出割合】

義務的経費 (48.6%)

251億1,330万円
※支出が義務付けられている経費

投資的経費 (20.1%)

103億4,829万円
※道路建設、河川改修等公共事業費や国・県等の行う公共事業負担額

その他経費 (31.3%)

161億4,927万円
※上記の義務・投資的経費以外の経費

※グラフに記載している数値は表示金額未満を四捨五入しているため合計額と一致しない場合があります。

用語の解説

- ※1 自主財源…地方公共団体が自らの手で収納できる財源
- ※2 依存財源…国・県が関与する財源
- ※3 市税…市民税や固定資産税等、市に納められた税金
- ※4 繰越金…前年度から繰り越されたお金
- ※5 諸収入…市の預金利子や各種貸付金の元利収入など
- ※6 使用料・負担金…市営住宅の家賃や保育園・老人施設の入所負担金など
- ※7 繰入金…基金や特別会計等から繰り入れたお金
- ※8 地方交付税…地方公共団体が等しく行政サービスを提供できるように、一定の基準により国が交付するお金
- ※9 国庫支出金…特定の事業に対して、国から交付されるお金
- ※10 県支出金…特定の事業に対して、県から交付されるお金
- ※11 市債…公共事業などの財源として、国や金融機関から借りたお金
- ※12 地方消費税交付金…地方消費税の一部を、人口などにより案分されて国から交付されたお金
- ※13 地方譲与税…国税として徴収され、そのまま国から地方公共団体へ与えられた税金
- ※14 人件費…市の職員の給与や退職金の費用、共済費など
- ※15 扶助費…社会保障の一環として現金や物品などを支給する費用。生活保護法などの法令に基づくもののほか、乳幼児医療費の公費負担なども含む
- ※16 公債費…市債の元利償還金
- ※17 普通建設事業費…道路の新設や公共施設の改築などの建設事業に要する費用
- ※18 物件費…人件費、扶助費、維持補修費などを除く、消費的な費用の総称
- ※19 補助費等…主に市内団体などの活動を補助する費用。組合負担、報償費などの過不足を補うお金
- ※20 予備費…使用を特定しないで予算の過不足を補うお金
- ※21 繰出金…一般会計から特別会計へ支出される費用

【今年度の重点施策を紹介】

将来を見据えた施設整備

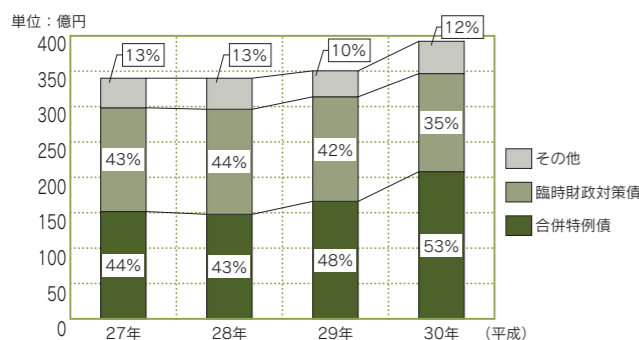
◀新庁舎の外観イメージ。平成32年度の供用に向け建設工事に着手します。耐震性不足の現庁舎を建て直し、大規模災害時も防災拠点としての役割を果たせるようにします。



平成31年度中の供用開始に向け、建築工事に着手する岡部公民館の外観イメージ。地域コミュニティの拠点と位置付け、施設内に図書分館、支所機能を持つ複合施設として整備します。

その他の会計や、市債の動き

◎市債残高



Q.市債はどんな時に必要になるの？

みんなで長い間使うものには「市債」を活用して、世代間で負担が不公平にならないように工夫しているよ。



※市では、額の大きなものを購入するときや公共施設の建設など多くのかたが使用するものをつくる時は、市債を発行することで単年度の負担を減らし、世代間の不公平感を減らすようにしています。

◎平成30年度全会計

※数値は表示金額未満を四捨五入しているため合計額と一致しない場合があります。

会計名	予算額
①一般会計	516億1千万円
②特別会計	298億9千万円
国民健康保険	147億6千万円
後期高齢者医療	27億2千万円
国済寺土地区画整理事業	6億2千万円
岡中央土地区画整理事業	5千万円
水道事業会計	47億6千万円
下水道事業会計	70億円
① + ②合計	815億円

平成30年度予算の総額は昨年度と比較すると、全会計で1.6パーセント増加しました。主な要因は、新庁舎整備事業や岡部公民館建設事業など、将来を見据えた公共施設適正配置の推進によるものです。また、市に有利な地方債『合併特例債』を活用して市民の負担を減らしながら進めています。(左上図参照)

今年の予算のポイントは『第2次深谷市総合計画』の力強い一歩を踏み出す予算

今年度の予算は、『第2次深谷市総合計画』の初年度に力強い一歩を踏み出す予算で、限られた財源を効果的に配分しました。以下に、平成30年度実施する事業の一部を掲載しています。

『第2次深谷市総合計画』の詳細については、広報ふかや3月号をご覧ください。

1 健康でいきいきと暮らせるまち

■新たに助産師などによる赤ちゃん相談を実施。妊娠期から子育て期にわたる切れ目のない支援を実施・・・1億778万3千円

■『食食用ポケット付エプロン』を配付、食育を推進
・・・233万3千円

ふっかちゃん食食用ポケット付きエプロン▶



2 次代を担う人と文化を育むまち

■不登校の児童生徒などの教育相談の充実、発達障害のある児童生徒などへの教育相談
・・・3,303万7千円

■旧渋沢邸『中の家』・尾高惇忠生家の維持管理、『中の家』主屋の整備・・・1億8,617万1千円

旧渋沢邸『中の家』の主屋の様子▶



3 活力とにぎわいにあふれるまち

■ふるさと納税・6次産業化・ブランド化を一体で推進。市内産業の高付加価値化と販路拡大につながる事業を展開・・・2億1,819万8千円

■農業と観光振興に資する事業を展開する『花園IC拠点整備プロジェクト』を推進
・・・6億4,868万3千円

5 快適で利便性の高いまち

■商店街や業務施設の再整備。商業を中心とした中心市街地にふさわしいまちづくりを展開
・・・6億495万円

■JR深谷駅行政施設の大規模改修と維持管理を実施
・・・1億4,531万4千円

現在のJR深谷駅の様子▶



4 安心とやすらぎを感じられるまち

■自主防災組織の設立・訓練の支援、総合防災訓練の実施・・・613万4千円

■市内4消防分署(川本・藤沢・岡部・豊里分署)を建て替え、耐震化・消防活動拠点の強化
・・・7億8,826万2千円

基本設計に基づく消防分署のイメージ▶



6 みんなで創る協働のまち

■市の知名度や魅力度の向上、シビックプライドの醸成、市内外に向けて『ふかや』の魅力を積極的に発信・・・2,412万7千円

■人材バンクの新しい形『技活』を推進。市民活動を活性化し、市民が主役の協働のまちづくりを推進・・・445万2千円

まとめ 【平成30年度施政方針より抜粋】 『元気と笑顔の生産地 ふかや』の実現に向けて

先の市長選挙におきまして、3期目の市政を担わせていただくことになりました。今後の市政運営に全身全霊を傾け『深谷市の発展に向けて取り組むこと』、それが私に課せられた使命であると決意を新たにしております。

本年は、新たなまちづくりの指針である『第2次深谷市総合計画』がスタートする年です。この第2次深谷市総合計画では、将来都市像として、『元気と笑顔の生産地 ふかや』を掲げました。今後も、さらに市民の皆さんの笑顔や深谷の元気を生み出すよう、全力で市政の発展に取り組んでまいります。

また、『第2次深谷市総合計画』の前期基本計画では、『出産・子育て安心ふかやプロジェクト』、『シニアが輝くふかやプロジェクト』、『花園IC拠点発！元気な産業ふかやプロジェクト』、『暮らし安心ふかやプロジェクト』、『魅力発信！知って見て好きになるふかやプロジェクト』の5つの主要プロジェクトを掲げました。

この5つの主要プロジェクトをはじめとした各種施策を実施し、深谷市の未来を自らの手で積極果敢に切り拓いていくという強い気持ちで、市長として3期目のスタートを切ってまいります。そして、これからの深谷市が輝かしい未来へと発展するよう、市民の皆さんと共に歩みを進めてまいります。

深谷市長 小島 進

